新庄小

センス・オブ・ワンダー（感じる心）の樹の紹介（～１月）

～　美しいもの、未知なもの、神秘的なものに目をみはる感性を育むために　～

雪がふっていた。白い鳥の羽がふわふわとおちてくるようで、とてもきれいだった。
（３年男子）

外に出て、口で息をすると、白いけむりのようになった。わたしの息は、あったかいんだ。
（４年女子）

雪が車のフロントガラスに向かってふってきた。車がかどをまがっても、同じガラスに向かってふってきた。ふしぎだ。（３年男子）

屋根にもっこりと積もった雪がドドドシーンと落ちてきたら、家がぐらぐらした。びっくりした。
（３年女子）

朝起きて外を見たら、朝日を浴びた雪が、ダイアモンドのようにきらきら光っていた。きれいだった。
（４年女子）

きょう、初めて赤ちゃんに会った。「いのちがうけつがれて家族がふえるってすごい」と思った。
（３年女子）

空からふってくる雪が外灯の光とまじり、外灯からふっているように見えた。とてもきれいだった。（４年女子）

雨の日は雨の音、風の日は風の音がするけれど、雪の日は音がなく、周りはとても静かになる。ふしぎだ。
（４年女子）

美しものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なるものに触れたときの感覚、思いやり、憐れみ、賛嘆や愛情などの様々な形の感情がひとたびよびさまされると次にその対象についてもっと知りたいと思うようになります。そのようにして見つけ出した知識はしっかりと身につきます。

レイチェル・カーソン「センスオブワンダー」より

新庄市立新庄小学校
The sense of wonder だより
第８号　　R3. 1. 21